



新之助情報（令和8年7月15日）

十日町農業普及指導センター

- 新之助調査ほの生育状況は、草丈「短い」、茎数は「やや少ない」、葉色は「並」。
- 出穂期は平年並と予想されますが、今後の気象で早まる可能性があります。

【調査ほの生育状況】

表1 新之助生育データ（十日町市小黒沢）（令和8年7月8日現在）

	草丈	茎数		葉色	移植	苗の
	(cm)	(本/m ²)	(本/株)	(SPAD)	月/日	種類
本年	41	522	32	34.7	5/30	稚苗
前年	50	439	28	32.0	5/31	稚苗
指標値	56	570	-	35.0	5/15～20	稚苗
指標値比・差	73%	92%	-	-0.3	-	-

【気象予報】 北陸地方 1 か月 予報（新潟地方気象台 7 月 9 日発表、7 月 11 日～8 月 10 日）

気温	降水量	日照時間
高い	平年並かやや少ない	平年並か多い

【今後の管理】

高温が予想されていますので、出穂期の葉色が目標値（SPAD 値 33～35 をめやす）となるよう、適正な肥培管理に努めましょう！

1 水管理

- 出穂 1 か月前には中干しを終了し、浅水の間断かん水でイネを水に慣らしてから飽水管理に移りましょう。
- 中干し終了直後の湛水（深水）は、酸素不足による根腐れや下葉の枯れ上がりにつながるので避けましょう。

2 穂肥の施用

- 出穂期は、今後の天候により前後します。ほ場ごとに幼穂を確認して、穂肥の施用時期を判断しましょう。
- 収数確保と登熟向上のため、穂肥は 1 回目・2 回目ともに確実に施用しましょう。ただし、生育がめやす（表 4）を大幅に上回る場合は、施用量を減らしましょう。
- 葉色が極端に低い場合（SPAD 値 30 以下）は、1 回目の穂肥時期を早めましょう。

表2 出穂予想と穂肥時期 ※5月下旬・稚苗移植を想定

出穂期予想	穂肥時期（出穂期前日数）	
	1回目（－21～18日）	2回目（－12～10日）
8月11日	7月21～24日	7月30日～8月1日

表3 穂肥施用のめやす

	1回目		2回目	
穂肥時期	出穂期21～18日前	幼穂長	出穂期12～10日前	葉耳間長
窒素施用量	1～1.5 kg/10a	0.5～1 cm	1～1.5 kg/10a	0 cm

表4 生育のめやす（十日町・津南版「新之助」栽培暦）

生育時期（出穂期までの日数）	草丈	茎数	葉色	葉数
	(cm)	(本/㎡)	(SPAD)	(葉)
幼穂形成期（24日前）	69	530～540	33～35	12.0
1回目穂肥時（21～18日前）	72	500～530	33～35	－
2回目穂肥時（12～10日前）	－	－	33～35	－
出穂期	稲長 80	385	33～35	14.0

3 病虫害対策

（1）斑点米カメムシ類

- 畦畔で斑点米カメムシ類が多く確認されており、今後、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動が活発になると予想されます。
- イネ科雑草が繁茂している所は、稲が出穂する前までに草刈りを実施し、斑点米カメムシ類のすみかをなくしましょう。
- ほ場内のヒエやホタルイは、斑点米カメムシ類を誘引します。ほ場内の除草も徹底しましょう。

（2）いもち病

- 新之助のいもち病ほ場抵抗性は、葉いもち「やや弱」、穂いもち「弱」です。
- 昨年度葉いもちがみられたほ場や、生育が旺盛なほ場など発生しやすい場所では注意してください。
- 管内でも感染が疑われる病斑が見られています。こまめにほ場を確認し、葉いもちの早期発見、早期防除に努めましょう。



図 いもち病に感染した葉（葉いもち）

4 農作業事故等の防止

- 水分補給や休憩時間を十分確保する等、熱中症予防と健康管理に注意しましょう。
- 作業前の点検や作業時の声掛け等により、農作業中の事故を防止しましょう。

「新之助の生産に係る持続的改善活動」に基づき、作業日誌の記帳や農薬管理台帳の整備・記帳、作業場等の整理整頓を確実に行ってください。